

介護施設間で連携しケアの統一化に向けての取り組み(第一報) ー水分摂取量の記録についてー

藤田 晋平¹⁾ 高 畠 學²⁾

要 旨：新田塚医療福祉センターは4つの法人からなり、社会福祉法人の中に介護老人保健施設（ハイツ）と指定介護老人福祉施設（ハウス）がある。しかし両施設間の情報交換・交流の場がなく介護ケア方法に違いがあった。そこで介護ケア方法の統一を目的に、両施設の職員が出向し介護ケア方法の違いを確認し検討した。その結果、全く同じ介護ケア方法ではないが「水分摂取量を記録として残すこと」を、ハイツで取り入れる事ができた。また相乗効果として介護ケアの質の向上にもつながった。このように両施設間で連携を図りながら、情報交換を強化することで介護ケア方法の統一ができ、質の向上につながると考えられた。

【Key words】 連携、水分摂取、記録

緒 言

新田塚医療福祉センターには介護老人保健施設（ハイツ）と指定介護老人福祉施設（ハウス）があるが、両施設間の介護ケア方法に違いがあることを昨年のセンターフォーラムで知った。そこで介護ケア方法の違いを確認し、統一化できる方法を検討し導入を行った。今回は水分摂取量の記録についての取り組みを報告する。

方 法

1. 平成21年2月1日から平成21年2月28日まで、ハイツ・ハウスで職員が1名ずつ出向し、全ての介護業務に携わり介護ケア方法の違いを確認する。
2. 出向後ハイツ職員で相違点や統一化に向けて検討し取り組む。

結 果

介護ケア方法の相違点は、1)介護方式がフロア単位のケアとグループケア 2)記録媒体が紙カルテと電子カルテ、

他にも入浴介助や排泄介助などにも違いがあった。ハイツ担当者で検討した結果、1)水分摂取量を記録として残す 2)記録内容の充実化 3)入浴方法の見直し、を統一化に向けて取り組んだ。

水分摂取量を記録として残す際に2つの問題点があがった。問題1、現在使用している紙カルテに水分摂取量を記録として残す場所がない。対策として水分チェック表（表1 水分チェック表オモテ・ウラ）を作成し記録を残す。作成した水分摂取量のチェック表はオモテに飲用した物や、引用した時間帯がわかるようになっており、ウラ面には水分摂取時の様子を記載することができる。問題2、水分摂取量を測定する際に液体・固体などの水分形態の違いに対応できる測定器具がない。対策としてグラム測定を採用し測定器具を購入した。

ハイツ入所者144名全員の水分摂取量を、毎回記録として残すことは難しい為、対象者のピックアップを行った。入所者全員の水分摂取量を1週間測定し、食事以外から摂取している1日の水分摂取量が680mlから800ml以下が3日以上あった人を対象者とした。その結果24名の対象者がいた。

図1（図1 平均水分摂取量）は対象者24名中、途中

¹⁾新田塚ハイツ 診療介護部

²⁾新田塚ハイツ 医師

（受付日：2010年3月）

表1：水分チェック表

(オモテ)														(ウラ)		
月	氏 名		様 水 分										平成 年			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
5:00																経過記録 / ()
9:00																/ ()
13:00																/ ()
16:00																/ ()
20:00																/ ()
5:00																/ ()
合計																/ ()

退所者等を除いた8名の1週間毎の平均水分摂取量をグラフにしたものである。測定開始時期よりも、平均水分摂取量が全体で約100ml増加している。

考 察

ハイツでは、水分摂取量を記録として残していなかった。その要因として、記録媒体といったハード面の違いがあった。しかし、記録として残せるように業務システム等のソフト面を調整することで、ハウスと全く同じケア内容ではないが、水分摂取量を記録として残すことが出来た。水分チェック表を使用することで個別ケアへの取り組みや情報伝達が容易になったという意見もきかれ、介護ケアの質の向上につながった。このように、他のケアに関しても、ソフト面を調整することで、ハード面を補う事ができ、統一できるものがある。今後も施設間で連携し、情報交換などを強化することが必要と考える。

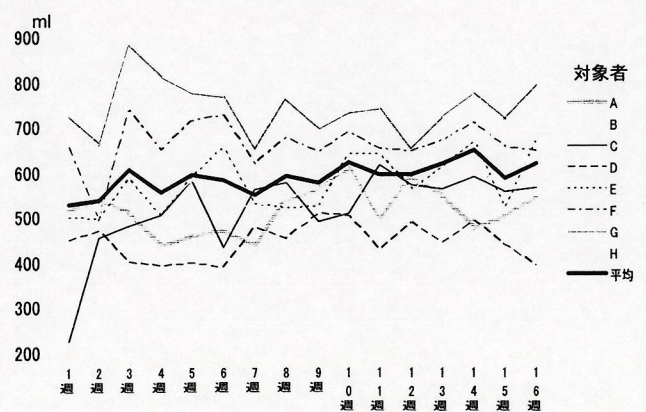


図1：平均水分摂取量